第 35 回可視化情報シンポジウムの開催にあたって

社団法人 可視化情報学会

会長 和泉 法夫

Message to the 35th Symposium on Visualization

The Visualization Society of Japan

President Norio Izumi

第 35 回可視化情報シンポジウムの開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

ここ 1 年で産業界では「見える化」という言葉が定着しました。現状を正しく把握し迅速に対応するためには必須で、組織の将来を左右するキーファクタであると言えます。民間企業だけでなく大学・官公庁などすべての組織において、あらゆる部門で見える化を推進し、一歩進んで成果の情報発信にもつなげることで社会からの評価を得ることが今後重要になっていくと考えます。可視化情報学会がそこで果たすべき役割はますます大きくなると信じております。

さて、今年のシンポジウムは 2 日間に渡って開催されます。昨年より 1 日短い開催日数ですが、基調講演・一般講演の件数は 117 件で昨年と同数です。これらの発表が、10 分野 25 のオーガナイズドセッション、4 つの一般講演セッションで行われます。参加者の皆様にとって、これまでになく密度の高い 2 日間になることと期待しています。

特別講演は 2 件となりましたが、今回は、量子コンピュータの実現に向けて世界的な成果を上げられた東大古澤明教授をお招きしました。夢のある、興味深いお話が聴けると確信しております。また、本年は JOV の創刊 10 周年を祝して記念式典が催されます。JOV 生みの親である中山泰喜先生・小林敏雄先生の記念講演も予定されており、大変楽しみです。

最後になりましたが、本シンポジウムの企画、開催、運営にあたり多大なご尽力をいただきました岡本孝司委員長、藤原暁子幹事をはじめとするシンポジウム実行委員会の委員各位、工学院大学及び関係者の皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。

第 35 回可視化情報シンポジウム実行委員会：岡本孝司（委員長；東京大学）、藤原暁子（幹事；筑波大学）、加藤裕之（宇宙航空研究開発機構）、武居昌宏（日本大学）、飯田明由（工学院大学）、水野明哲（工学院大学）、木村元昭（日本大学）、植村健（旭硝子（株））、木倉宏成（東京工業大学）、荒木幹也（群馬大学）、佐藤浩（ダンテック・ダイナミクス（株））、染矢聡（東京大学）、川口達也（東京工業大学）